

【著書紹介】

日本家政学会編「衣服の百科事典」

薩本弥生

横浜国立大学教育人間科学部

はじめに

現代の少子高齢社会、国際化、情報化の進展に伴い衣服にはたくさんの機能、付加価値が求められる。一方、昨今、繊維、衣服系の大学は減少傾向で十分に衣服に関する知識が後世に伝承させるための本が必要とされている。本書はそのようなニーズを受けて日本家政学会編著として被服の幅広い領域を被服関連各部会の部会員を中心に学会員が分担して執筆し、幅広い領域をまたいだ内容になっている。大枠で衣服素材、染色、洗浄などの被服材料・管理分野、アパレルのデザインや生産、流通など、被服心理、被服構成、消費科学、服飾の歴史・色彩などの服飾美学等の内容で構成されている。

本を実際に手に取ってみると表紙に民族服やドレス、サーマルマネキン、布の文様などの写真がカラーで掲載されていて、「衣服の百科事典」という内容を象徴するような外観で、表紙をめくって数ページの口絵も写真がたくさん掲載されていて、親しみやすく、興味をひかれる。サイズはA5判で厚みが3.5cm、丸善出版から平成27(2015)年4月25日に発行された。

今回の事典の執筆に当たり、被服衛生学部会が執筆を主に担当したのは1章の「環境と衣服」と14章の「衣服と健康」である。被服衛生学部会編で部会の30周年を記念して部会の有志で「アパレルと健康—基礎から進化する衣服まで—」を2012年に刊行した。上記の本の執筆担当項目をベースに部会員の先生方の有志で分担執筆した。

1章の環境と衣服について

1章の構成は世界の気候と民族衣装、人を取りまく環境、産熱と放熱、体温調節機能に影響する人体側の因子、自律性体温調節と行動性体温調節、温熱環境の要素と温熱指標、寒冷環境での生体反応、寒冷環境での着衣の保温性と影響する要因および計測法、暑熱環境での人体の生理反応、暑熱

環境での着衣の熱水分移動性能と影響する要因、着衣の変形・拘束理論、着衣の風合い・肌触りの12項目からなる。各項目、必要に応じて図表を交えつつ、解説されている。被服の快適性要因となる、温熱的快適性面（人体、環境、被服）、身体適合・運動機能性面、風合いの面の観点からなる。

14章の衣服と健康について

14章は暑さと健康、寒さと健康、肌の健康と衣服による障害、体を守る衣服、下着の機能性と健康、妊産婦用衣服、眠りの快適性と健康、靴と健康、おしゃれと健康の9項目となっている。

1章が環境条件との絡みでの基本的な事項についての環境と衣服の関係性について取り上げているのに対し、14章は健康をキーワードに人間—衣服—環境系の中での健康に寄与する衣服の特性について解説されている。

さいごに

被服衛生学分野のみならず、本書の巻末には索引があり、調べたい用語からの検索もできるようになっている。被服学や衣生活に関わる広範な内容の基礎から応用までの知見を調べることができる。インターネットで気軽に用語の意味が調べられる時代にはなっているが、被服の専門性に特化して日本家政学会に所属する被服の専門家が総力を結集して執筆された本書は、インターネットで手軽に得られる情報とは一味も二味も異なる。被服分野の辞書、事典として是非、手元において用語の確認等に活用してほしい。

<連絡先>

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2
横浜国立大学教育人間科学部 薩本 弥生
電話/FAX：045-339-3307
eメール：satumoto@ynu.ac.jp